

**製品名: AR-β1 ウサギポリクローナル抗体**

**カタログ番号: APRab07194**

研究使用のみ

## 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	51kDa

## 抗原情報

遺伝子名	ADRB1
別名	ADRB1; ADRB1R; B1AR; Beta-1 adrenergic receptor; Beta-1 adrenoreceptor; Beta-1 adrenoceptor
遺伝子 ID	153.0
SwissProt ID	P08588
免疫原	抗血清はヒト ADRB1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 281-330

## 背景

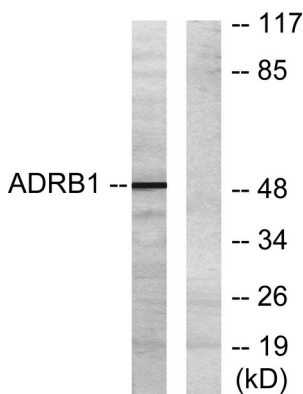
アドレナリン受容体 (サブタイプ: α1、α2、β1、β2) は、ホルモンであるエピネフリンおよび神経伝達物質であるノルエピネフリン

の生理学的作用を媒介する、グアニンヌクレオチド結合調節タンパク質共役受容体のプロトタイプファミリーです。この遺伝子の特定の多型は、安静時の心拍数に影響を与えることが示されており、心不全にも関与している可能性があります。[RefSeq 提供、2008年7月],ドメイン: PDZ ドメイン結合モチーフは、GOPC、MAGI3、および DLG4 との競合的相互作用を媒介し、受容体の細胞内局在に関与しています。機能:  $\beta$  アドレナリン受容体は、G タンパク質の作用を介して、カテコールアミン誘導性のアデニル酸シクラーゼ活性化を媒介します。この受容体は、エピネフリンとノルエピネフリンにほぼ等しい親和性で結合する。PTM: 受容体の相同脱感作は、 $\beta$  アドレナリン受容体キナーゼによるリン酸化によって媒介される。類似性: G タンパク質共役受容体 1 ファミリーに属する。細胞内局在: 細胞膜に局在する。GOPC の過剰発現によりゴルジ体で発現する。サブユニット: GOPC、MAGI3、DLG4 と相互作用する。

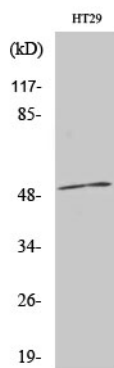
## 研究分野

カルシウム;神経活性リガンド-受容体相互作用;エンドサイトーシス;ギャップ結合;拡張型心筋症;

## 画像データ



ADRB1 抗体を用いた HT-29 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



AR- $\beta$ 1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析